

中国残留邦人等への 理解を深める集い **in** 山梨



あなたの隣にいる 『帰国者』のこと知っていますか？

多くの中国残留邦人は、日中国交正常化(1972年)後、中高年となってようやく祖国の土を踏むことができました。このような方々は「(中国)帰国者」と呼ばれています。帰国者の祖国での暮らしは、戦争の傷跡に苦しみ、言葉の壁や文化の違いに苦しむ日々でもありました。帰国者は、戦後77年を迎える今、何を考え、何を思うのか？負の歴史を繰り返さないためにも、帰国者の物語に耳を傾けてみませんか？

写真撮影：菅野蓮子さん(中国帰国者)

第1部 中国残留邦人等の歴史的背景と その体験の継承

講演 「“中国残留邦人”の歴史はなぜ
語り継がなければならないのか？」

人間文化研究機構 国文学研究資料館准教授 加藤聖文氏



2022年
3.20 (日)

13:00~16:00(12:30開場)

入場無料

定員80名 申込裏面

※会場では3密を避けた感染予防対策を行います。参加の皆様もマスク着用をお願いいたします。また発熱、咳等、体調のお悪い方はご遠慮ください。

第2部 「中国残留邦人等の体験と労苦を 伝える戦後世代の語り部」講話

※「戦後世代の語り部」とは……中国残留邦人等の体験を直接聞き取り、その労苦や帰国者の現在を後世に伝える戦争未体験世代(帰国者二、三世や一般日本人等)の継承者。



語り部講話の様子

会場：恩賜林記念館 大会議室 甲府市丸の内 1-5-4 舞鶴城公園内

主催：首都圏中国帰国者支援・交流センター 後援：山梨県・甲府市

参加希望の方は事前にお申し込みください。申込方法は裏面に！

中国残留邦人等への理解を深める集い

2022年3月20日(日) 13:00~16:00 (12:30開場)

恩賜林記念館 大会議室 (甲府市丸の内 1-5-4 舞鶴城公園内)



中国残留邦人等とは…

1945年(昭和20年)当時、中国東北地区(旧満洲地区)には開拓団など多くの日本人が居住していましたが、同年8月9日、突然のソ連参戦により、人々は居住地を追われ、逃避中や収容所では飢餓や伝染病により死亡者が続出するという悲惨な状況にありました。このような混乱の中、肉親と離別して孤児となり中国の養父母に育てられたり、

中国人の妻になるなどしてやむなく中国にとどまった方々を「中国残留邦人」と呼びます。これらの人々はその後も長年にわたり日本への帰国が叶わず、「残留」せざるを得ませんでした。

この他、樺太や旧ソ連の地域に残留されていた方を「樺太等残留邦人」と呼び、総称して「中国残留邦人等」と呼びます。

山梨県「高齢者向け日本語交流サロン」の活動の様子

山梨県内にも中国帰国者の方々が暮らしています。

秋の四尾連湖にて。山梨県日中平和友好会の方々と



富士川町のいきいき農園にて



■JR甲府駅南口から徒歩8分 ※お車でお越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用下さい。

お申し込みはFAXかメールまたはWebで;

首都圏中国帰国者支援・交流センターまで、お名前とお住まいの都道府県・市区町村名、お電話番号等を添えてFAXかメールまたはWebでお申し込みください。

Web申し込みフォームはこちら



FAX: 03(5807)3174

メール:kikaku@sien-center.or.jp

※FAX、メール、Webでのお申し込みがご不便な方は、電話:03(5807)3171へ(9:30~17:45/月曜休館)

① フリガナ お名前 お電話 所属グループ・団体名(任意)	ご住所	県・都	市・区・町・村
	年齢 () 代	一般・学生・帰国者・その他 ()	
	Eメール	@	

② フリガナ お名前 お電話 所属グループ・団体名(任意)	ご住所	県・都	市・区・町・村
	年齢 () 代	一般・学生・帰国者・その他 ()	
	Eメール	@	